日本百名山・北海道

羅臼岳	1661m
斜里岳	1547m
雌阿寒岳	1456m

後藤隆徳

●北海道・羅臼岳、斜里岳、雌阿寒岳

▽1990年8月11日～16日

▽後藤隆徳、あい子、菜央子、正登

北海道へ行こう！今年のお盆の家族旅行はどこに行こうか考えていたとき、ハッと思った。その時が1ケ月ちょっと前、すぐ飛行機と汽車の予約を入れたが、前者は取れず、往復汽車の旅となった。北海道の山は実に15年振りで、非常に楽しみであった。

8月11・12日（はれ）

＜タイム＞上野16：50北斗星1号～千歳空港8：37～釧路（レンタカー）～羅臼～宇登呂グリーン知床泊17：00

初めて乗る「北斗星」は仲々ステキで、飛行機にはない雰囲気を持っていた。レストランのテーブルは真っ白で、赤いスタンドが立っていた。サロンには、ビールの販売機も備えつけられ、テレビも見られる。もちろん公衆電話も、そして、シャワーもある。21時からはレストランも大人のための「パブ」に早変わりする。夜汽車に揺られながら飲むお酒の味はいかに・・・。

上野駅ではまず汽車の前で記念撮影。やがて出発。子供たちは、寝台で大騒ぎ。18時過ぎからディナー。一応、フランス料理のフルコースとのこと。「北海の幸テリーヌ」「コンソメスープ花売娘風」「舌平目のペルザーヌ風」「青林檎の氷菓」「仔牛肉のコンドブルー」etc。味はそれなりに素晴らしかった。

目が覚めるとすでに津軽海峡を渡り函館本線を走っていた。家々には特徴的な暖房用の四角いエントツが伸びて、それが「ああ、北海道だな」と思わせる。朝焼けの内浦湾の向こうには鷲別岳（911m）がそびえている。

千歳空港で根室本線にのりかえて釧路に向かう。ここは日高山脈の北端を巻くように狩勝峠を越える高原列車だが、のんびりビール片手に眺める白樺に囲まれたあたりの山々は、牧歌的ですばらしかった。この辺は汽車の旅の良いところだろう。駅弁は「カニめし」を食べる。

釧路で予約したレンタカーに乗る。カローラの新車だった。郊外に出ると、見渡すかぎりの牧草地

が延々と続き、道はどこまでも真っ直伸びている。今、甲子園に行っている中標津高校のある中標津を通って羅臼に向かうと、右手に国後島が見えた。霧の羅臼峠を越え宇登呂に到着。（釧路より196Km）オホーツクの波が打ち寄せる港の前に今日の宿である「グリーン知床」はあった。温泉は塩分の強い温泉だったが、なかなか良かった。

8月13日（くもり後あめ）

●羅臼岳登山

＜タイム＞起床6：00～木下小屋（登山口）7：25－弥三吉水8：55－銀冷水9：55－羅臼岳12：05－登山口16：00～小清水原生亭泊17：30

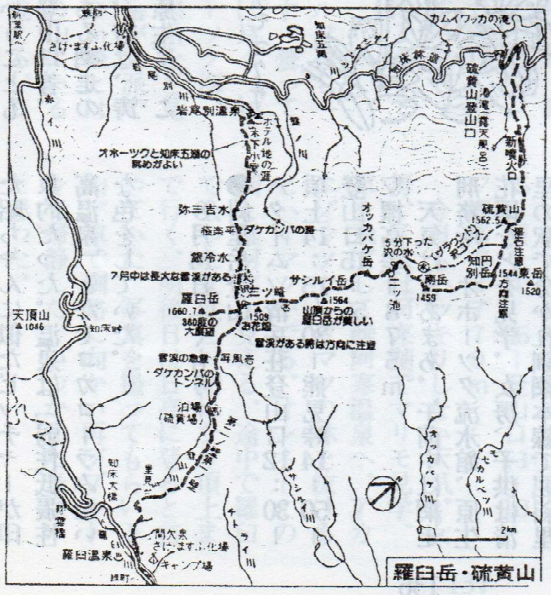
▽標高差＝1420m

2階の民宿の窓を開けると目の前にオホーツクの海が広がっているが、台風11号以後秋雨前線の影響でぐずついた天気が続き、空と海の境もハッキリせず、飛んでるカモメもこころなし元気がない。岩尾別温泉の木下小屋登山口に向かう。木下小屋はすぐ前のホテル「地の涯」とは対象的な粗末な素泊り小屋で、小屋のおばさんが庭の水道で釜を洗っていたが、私達を見ると手を休め「羅臼けぇ」と聞いた。

登山口にある「熊に注意」の看板を見て、子供たちが大騒ぎをすると「めったに会わねぇ」と言ってくれた。

ミズナラの多い登り易い道をゆくと、すぐにハイマツが現れる。と、思ったら足元をライチョウが歩いている。さすがに知床である。でも熊でなく良かった。しかし、注意してみると、あちこちに植物の堀返しがあるが、これはきっと熊の仕業ではないだろうか。

意外だがブナはほとんどなかった。途中でおいしい銀冷水を飲んでいると、下から中年の女性2人が登ってきた。東京から来たと言ったが結局、この方たちとは以後



斜里岳、雌阿寒岳を一緒に登ることになった。樹林帯を抜けると北岳の大樺沢に似た大沢に出る。

入口には、一面にシナノキンバイ（チシマキンバイソウ?）が見事に咲いている。そのほか本州では見られないものに、チシマクモマグサ、レブンコザクラ、エゾツツジなどが見られた。霧が晴れてオホーツクの海、サシルイ岳方面が見えたが羅臼岳はだめだった。ハイマツの海の羅臼平を越えて、大きな溶岩がゴロゴロする本峰の登りになる。ここには珍しい、イワブクロの花が多かった。

今回、珍しい花は全て写真に収め帰静後、牧野の図鑑で同定したが正確だった。後日、竹端さんと羅臼岳の話をした時、この花を見たかと問われたものだった。

雨が少し降ってきたが、子供たちも頑張る。最後の岩場を越えると頂上だった。記念写真を撮り早々と下山。途中から雨も大降りとなったが、別にどうということもなかった。長い下降で登山口着。車に戻り、今日の宿である網走の手前の小清水に向かう。宿は、涛沸（とうふつ）湖畔の原生亭。この宿は少し変わっていてスリッパを置いてない。だが、廊下などチリ一つなく、ピカピカに光っていた。夕方、甲子園で隣町の中標津高校の試合をやっていたが、結局延長で負けた。丸いメガネをかけた昭ちゃんに似たピッチャーが印象的だった。温泉は「弱性低張性高温泉」とかでコカコーラみたいな色をしていた。

8月14日（くもり）

●斜里岳登山

＜タイム＞清岳荘登山口12：30－頂上14：15～30－熊見峠14：50－登山口15：55

▽標高差＝875m

天気はまあまあ。午前中は網走刑務所、オホーツク流氷館、原生花園などを見学。女房、子供は清里の駅で分かれ釧網本線で屈斜里湖和琴温泉に向かう。私は目の前に聳える利尻島を彷彿させる斜里岳に車を飛ばす。登山口の清岳荘には簡単に着いた。

登山口で登山カードに記入しようとしてビックリした。11時頃、私の前に登った人の住所氏名が何と「静岡県駿東郡長泉町下土狩1188・中里宣資」とあるではな

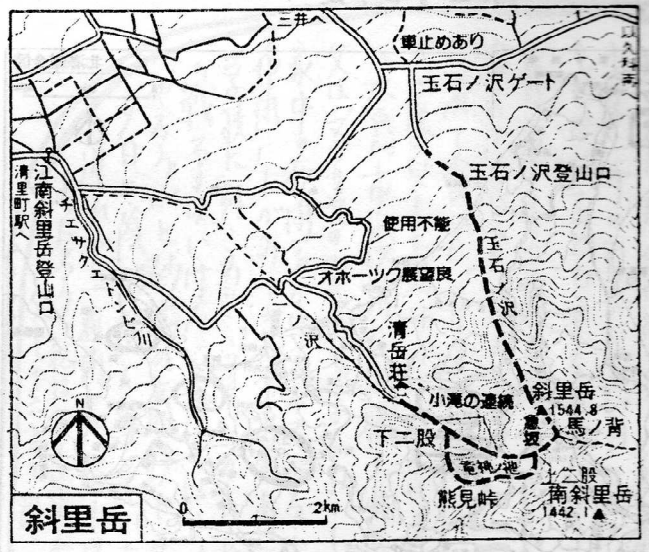
いか。ウーン。何たる偶然。

登山道は清岳荘の前の一の沢を真っ直登って行く古典的なルートだった。途中、羽衣の滝、万丈の滝、七重の滝など、美しい滝がかかる。ところどころにフィックスロープもあり、部分的にデリケートなので子供、年配者では無理かもしれない。下りもちょっと厳しそうだ。しかし効率は良いのでグングン稼ぐ。急登が終わり流れも少なくなると上二股で、上部は背の低い矮小化したダケカンバで一面被われていた。一見、カールの跡の感じもする。

年配の方と会い下降路について情報交換したが、この方が中里さんだろうか。聞きそびれてしまった。（帰静後、電話で確認したところもっと若い方で、御存知のように入会してくれた）

馬ノ背のコルに達し一気に頂上を陥す。曇ってはいるが展望は良く、知床方面、オホーツク海、明日登る雌阿寒岳など見えた。南斜里岳が立派でとても1500m級とは思えず、南アの山にいるような錯覚を覚える。これで雪が付いたら更に迫力が出るだろう。セルフタイマーで写真を撮り下山。帰りは、竜神ノ池を経由して熊見峠を越える。

車に戻り屈斜里湖めざし、家族と合流した。



8月15日（くもり）

●雌阿寒岳登山

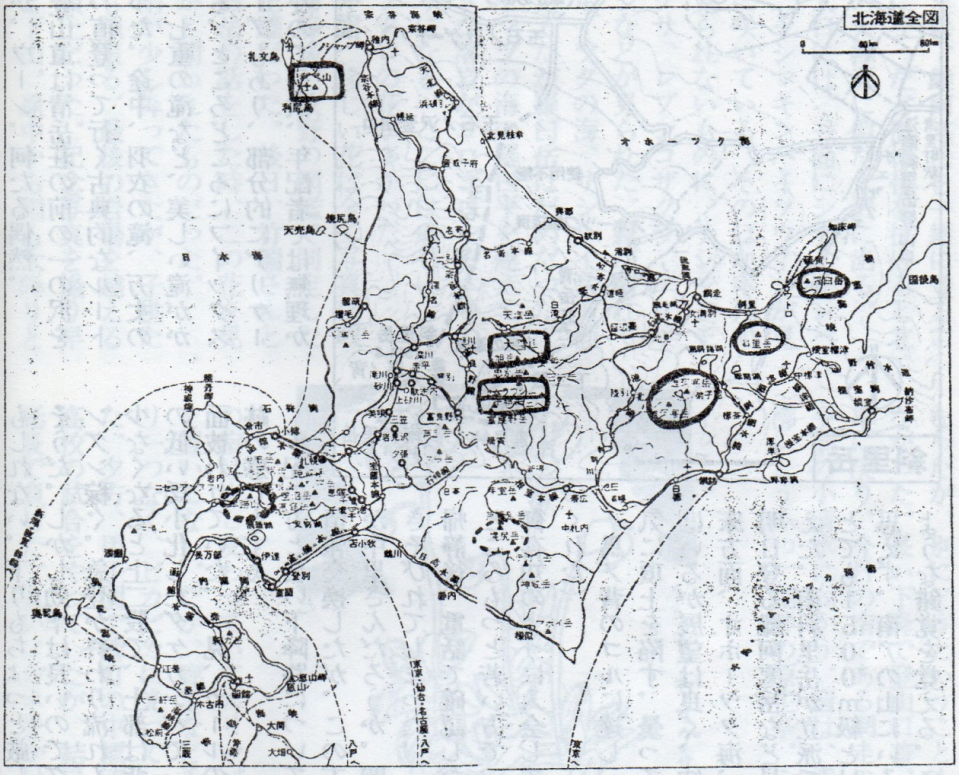
＜タイム＞雌阿寒温泉登山口7：45－頂上10：05－登山口11：10

▽標高差＝770m

今日もハッキリしない天気。女房、子供は阿寒湖でマリモ見学。車を飛ばして雌阿寒温泉へ。アカエゾマツ、トドマツの林を抜けるとハイマツがでる。オンネトーの湖と雄阿寒が見える。途中で羅臼で会った女性と一緒になり頂上まで行く。明後日は日高に登ると言っていた。写真を撮ってもらい下山。車で釧路に向かい再びブルトレで帰静した。いつかまた来たいと思った。

北海道の百名山

▭ …… 前回登った山　(1975、8、9～21)
◯ …… 今回　〃　(1990、8、11～16)
⬭ …… 次回登る予定の山



＜あとがき＞

15年前訪れたときは、利尻岳、大雪山、トムラウシ山、十勝岳を登った。結果的には百名山だったが、当時は別に意識していなかった。今回も3峰ともそうだが、道東ではこれが主な山である。北海道の場合、3回以上行かないと主な山は登れない。

足はレンタカーを使い630キロ走ったが料金は全部で3万以下で断然レンタカーが有利だ。

民宿では3泊したが、料金は安くサービスも良い。全て温泉付きも嬉しかった。ただ、予約は1ケ月前では希望通りならない。

天候は台風11号の後、秋雨前線の影響でハッキリしなかった。前回もそうだったが7月の方が良いようだ。

ブルトレはなかなか楽しめる。行きはブルトレ、帰りは飛行機が理想的だ。

花は珍しい種類がたくさんある。